

若手句会実況中継 令和元年9月13日(金)

指導者：角谷昌子氏・小島 健氏 出席者数 21名

高得点句

1位 ゑのころやバス停三つある団地 倉持梨恵 7点

(受講者5点、角谷・小島選)

講評：私もバス停が3つある団地に住んでいて、高度成長期にできた団地の感じが出ている。現在団地の高齢化が問題になっているが、確かに多くの人の生活があり、季語の「ゑのころ」が効いている。(受講者)「バス停三つある団地」で大きな団地であることがわかる。視点もフレーズもいい。季語の「ゑのころ」は少し動くかもしれないが十分わかる。(小島)「バス停三つある団地」で団地の広さが分かるので良い。季語の選択は「ちちろ虫」としたら夜遅くに帰宅した感じが出たりもする。そういう点では「ゑのころ」では少し弱いかもしれない。しかし茂って増えていく感じは伝わるので良しとしたい。(角谷)

2位 流星の続きはクレヨンの線路 西生ゆかり 6点

(受講生4点、角谷・小島選)

講評：流星はそのあとどこに落ちていくのか分からない幻想的なところがある。この句では目の前にあるクレヨンで描かれた芸術作品の線路に落ちたところとところが面白かった。(受講者)流星というとメルヘンチックになりやすいが、クレヨンで描かれた絵の線路という具体物を出したところが良かった。(角谷)「クレヨンの線路」が分かりづらかった。子供が絵を書いているのかと考えた。この句は五七五ではなく、プレバトで人気の「句またがり」だ。五七五の本来のリズムから外れるが、リズムが整っていれば、また内容によっては効果的かもしれない。私はメルヘンチックなところに共感した。(小島)

3位 秋の蟬母の数珠もて父送る

菊池陽子 5点

(受講者3点、角谷・小島選)

講評：「秋の蟬」という季語がよく効いている。「夏の蟬」だとうるさすぎるが、つくつく法師など「秋の蟬」がよい。母の数珠で父を送るというところに深い情愛が感じられた。今日のトップクラスの句である。(小島) 私もトップクラスに選んだ。父母両方見送った様子が分かりやすく、しみじみとした良い句。「もて」は普通理屈っぽくなるが、この句では大丈夫、上手くいった。(角谷)

3位 脇ゆるく開けかまきりの飛び立てる

福田健太 5点

(受講者3点、角谷・小島選)

講評：蠮螋の写生がしつかりと出来ている。飛び立つ時の蠮螋を見ていると確かに脇が開いていて擬人化が気にならない。蠮螋への愛情を感じる。(受講者) 高野素十の「翅わっててんたう虫の飛びいづる」に比べると写生がゆるい。この句では飛んでいる最中も脇が開いたままのように感じてしまうので、下五を「跳ねいづる」と直したい。でも写生をしつかりしようとしているのでいただく。(角谷) 蠮螋は三角の顔をしていて怖い雰囲気がある。この蠮螋は脇の甘い蠮螋でユーモアを感じる。観察力がある句だが、動詞が多く表現が甘くなるので、動詞を減らすことをお勧めする。(小島)

5位 火曜日の空のごみ箱秋日和 倉持梨恵 4点

5位 檸檬かじる君の乱杭歯が白い 大堀 剛 4点

5位 客室の聖書真新しき九月 よこたまさみち 4点

5位 双方の言ひ分け曲げず鶏頭花 寺澤 始 4点